# ２００６年１月３日　藤原岳　No.351　隊長

コース：大貝戸から避難小屋をピストン(8:05～13:10)

ここからは全くトレースがない。いよいよスノーシューの出番だ。南方の斜面を登り尾根に乗る。スノーシューは斜面にも強いはずだが、今回はよくスリップする。固まった雪の上に数十センチの新雪層があるためだろうか。雪はやむことがなく降り続いているが時折、太陽が覗くので、ワンチャンスを狙った撮影ができるかもしれないという淡い期待がある。先頭を歩くのは大変なパワーが必要だが、真っ新の雪にトレースをつけるのも悪くはない。9合目まで来るとさらに雪が深くなってきた。このあたりははっきりとした登山コースになっているはずであるが、すべてが雪にかき消されていて、マーキングテープを見て、ここがコースかと思うほどである。これだけの積雪になるとコースをたどる意味もないので、一直線に避難小屋を目指す。傾斜がきつくなるとスノーシューといえでもスリップしだすので、パワーのロスも多くなってくる。もう少しで避難小屋だが、終始先頭を歩いてきた疲れが出て、少し後方につけていた単独登山者にここで先頭を譲ることにした。傾斜を登り切り灌木帯に入ると、風雪が激しくなり氷の粒が顔面を叩くので、痛いのか冷たいのか分からない状態だ。風にあおられふらふらしながら、なんとか避難小屋までたどりついた。

大荒れの天気になったので、小屋に入り暖かいラーメンでも作ろうかと思ったが、入口が半分ほど雪に埋もれていて、しかも扉が凍り付いていて、押しても引いても全く動かない。小親の陰で風雪は何とかしのげるが、お湯を沸かしてラーメンを作れる状態ではない。ツェルトを張ることも考えたが、この風では難しそうだ。撮影のために手袋を外すと、あっという間に手が痛くなってくる。あんパンを凍り付きそうさお茶で流し込み、体が温かいうちに引き返すことにした。結局カメラは使わず、背中でカエラムのザックが泣いていた。

Copyright (C) 2005 Photo Club  All rights reserved. Site design by k.kanamaru